

第9回 港湾におけるICT導入検討委員会

議事概要

日時：令和2年2月14日（金） 14:00～16:00

場所：（一財）港湾空港総合技術センター 6階会議室

1. 主な議事

○事務局より、本年度の委員会での取り組み結果および来年度以降の委員会での取り組み方向等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

○ICT 浚渫工については、現在、海上保安庁で検討しているマルチビーム測深における取得データの処理方法やシングルビーム測深併用の見直しについて、関係機関が協働して生産性向上の観点から最適な測量作業効率化の方法を見出していくことが重要。

○工事へのICTの導入において生じている作業船の拘束は、生産性が下がることを意味しているため、技術面だけでなく人的な要因等も含めて問題点や課題を明確にし、拘束をなくすように改善していくことが必要。

○BIM/CIMの活用については、設計段階にて全ての工種・部材を対象として3次元化すれば効率化できるということではないので、個々の案件での特性や次段階での必要性をふまえて取り組んでいくことが必要。

○ICTやBIM/CIMに対応できる人材の育成が急務であるが、発注側と受注側、設計側と施工側など各立場で求める教育の内容が異なることから、各関係機関にヒアリング等を実施し、効果的な研修等を計画し実施していくことが必要。

○i-Constructionの主目的は生産性の向上であり、ICTやBIM/CIMを使うことのみではないので、今後の方針に示されているように、これまでの試行工事やこれからの新規プロジェクト等の実績から、作業の効率化や安全性向上に寄与する技術を抽出し、標準化していくことが望ましい。

○今後の方針として、必要な技術を現場で実証しながら標準化していくという方向性はよいが、i-Constructionを推進していくためには、ロードマップ等で具体的な取り組みや進め方を示すことが必要。

○今後の方針をふまえ、本委員会の検討の方向性を「ICT導入」から「i-Construction推進」に転換し、この主旨に従い来年度より委員会の名称を『港湾におけるi-Construction推進委員会』に改称して、i-Constructionの取組みを一層加速させる方策を引き続き検討していく。

以上